

第18回資金管理業務諮問委員会 議事概要

1. 日時：2007年3月19日（月） 13時30分～16時20分
2. 場所：財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者：永田委員長、鬼沢委員、酒井委員、辰巳委員、細田委員、米澤委員、渡辺委員
4. 議題：①輸出取戻し手数料の額の改定について
②平成19年度事業計画（案）、平成19年度収支予算書（案）及び平成19年度特定再資源化預託金等の出えんについて
③平成19年度再資源化預託金等運用計画（案）について
④平成18年度第3四半期（4～12月）決算報告について
⑤平成18年度第3四半期の運用の評価について
⑥内部監査の結果について
⑦その他

5. 議事概要

※ 本議事概要では委員の主な意見、決定事項を中心にまとめており、資料に関連する質疑については後日、議事録を公表いたします。

（1）議題①について

輸出取戻し手数料の額の改定案について、資料3（添付資料を含む。）を使用して事務局から説明。委員から案のとおり了承された。

<意見> （注）○は委員、●は事務局

- 収支の見通しの当初想定と実績値に差があるが、当初想定はどう考えていたのか。
- 当初想定作業量を基に件数を掛けて費用を求めたが、競争入札や業務効率化による費用低減が予想以上であった。
- 手数料が下がると輸出返還申請が増える方向に働くのではないか。
- 資料3にあるように台あたりの平均返還額がパソコン申請で8,800円、一般申請で8,100円程度と手数料に比して高い。また添付1に記載したように申請率が実績で82%と高いので、手数料を引き下げても、それだけを理由に申請率が上がることはないと考えている。

（2）議題②について

平成19年度事業計画（案）、平成19年度収支予算書（案）及び

平成19年度特定再資源化預託金等の出えんについて、資料4-1～資料4-10を使用して事務局から説明。各委員から案のとおり了承された。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 資料4-3の添付1「自動車の台数前提」の輸出返還台数が平成18年度予算想定は30.7万台となっており、資料3添付1の輸出返還台数の数字と微妙に違うのはなぜか。
- 資料3の添付1に記載した年度別予想台数の18年度36.9万台は、現行の傾向値からみて年度末にどうなるかを見込んだ数値。資料4-3の添付1の予算想定30.7万台は1年前に18年度予算を作成したときに想定したものである。
- 資料4-6で人員削減の話があったが、今の時期が適当なのか。ユーザーからのリサイクル料金の一部が離島対策等支援事業に使われている訳で、出えん先市町村で正しく運用管理されていることを確認する体制が今後必要となる。
- 約1年半の支援体制の構築の過程で自治体の実態把握と信頼関係の醸成を図ってきた。こうした点をベースに自治体とのやりとりの勘所も分かってきた。自治体の運用管理を効率的に確認する体制をつくることで、人員が減っても対応できると判断している。

(3) 議題③について

平成19年度再資源化預託金等運用計画(案)について、資料5(参考資料を含む。)を使用して事務局から説明。各委員から案のとおり了承された。

(4) 議題④について

平成18年度第3四半期(4～12月)決算報告について、資料6-1～資料6-10を使用して事務局から説明。各委員から案のとおり了承された。

(5) 議題⑤について

平成18年度第3四半期の運用の評価について、資料7-1～7-2(別添を含む。)を使用して事務局から説明。各委員から案のとおり了承された。

(6) 議題⑥について

平成18年度内部監査の結果について、資料8-1~8-2（参考を含む。）を使用して事務局から報告した。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 資料8-2の「3. 前回までの提言事項の進捗状況」の「3. マニュアル策定」は何故今まで完成しなかったのか。
- 前回までの指摘では資金管理センター全体を対象としたマニュアル作成を求められたもので、これについては基本編として作成済みである。今回更に詳細な部分が必要であるという追加の指摘があったもの。
- 事務ミス・トラブルは何か発生しているか。
- 発生してはいない。発生する可能性のあった事務フローは修正してミスの起こる可能性を減らしてきている。

(7) 議題⑦について

「資金管理料金」に係わる主な調達（入札）結果について、資料9を使用して事務局から報告した。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 落札のポイントに書いてある考え方や定量化する手法、例えば点数化による総合評価等を検討しておいて欲しい。
- 評価のやり方をもう少し考えてみる。

以上